

Ⅲ. B 神と人の恋 (恋ではない性的関係も含む)

1. 女神→男

女神の満足が続かないという面が目立つ。

① アフロディテ→アドニス

(Apollod. 162.1-13)
(Bulf. 96-98)

スミュルナが父に恋して交わる (アフロディテの罰)
→ミュルラに変身してアドニスを生む
→アフロディテとペルセポネがこの美少年に恋する
→アルテミスの怒りにより狩猟中に死ぬ (若死)

ティトノス ゼウスに頼んで男を不死にしてもらうが、永遠の若さを頼み忘れる。

(『アフロディテ讃歌』 218-38)
(Bulf. 269)

→箱の中のコオロギに変身。

② エオス

ケパロス 恋してさらってゆき子をもうける。(しかしプロクリスとの夫婦愛は根強い)

(Bulf. 47-50)
(Ap. 51. 2-3, 161. 末 7-6)

(Bulf: プロクリスに心が向いているためエオスが仕返しするという形)

オリオン 恋してさらってゆく (+眼を治してやる)が、オリオンはアルテミスに殺される

(Ap. 35 末 6 - 36. 4, Bulf. 267)

アレスと共寝したことを怒ったアフロディテが、たえまなく恋に身を焼くようにした (Ap. 36)

③ セレネ→エンデュミオン

(Ap. 43. 7-10, Bulf. 267)

不老不死を許されるが、いつも眠った状態の恋人。

(決して成就に至らない)

Cf. テティスとペレウス (Ap. 158 末 8 - 159. 9)

人間の男に嫁にやられ、アキレウスを生むが、

不仲で別居。愛する息子にも戦死される。

アフロディテとアンキセス

恋にかられてアンキセスと交わり、英雄アイネイアス

(Ap. 152. 5-6, 『アフロディテ讃歌』 281-91)

をみごもるが、男にはこの恋を口止めする。

2. 男神→女

思いをとげることができても、少なくとも女かその子に試練が訪れる。

もし彼ら自身の受難が小さくても、のちに難儀がやってくる。

- ①ゼウス→ダナエ 父が予言を恐れて、子を産まぬよう娘を青銅の室に閉じ込める
(Ap. 79 末 4 - 80. 7) →ゼウスが黄金に変身して交わる
→ペルセウスが生まれると、箱に入れて母子ともに流される
Cf. エウローペー (Bulf. 155. 4-9) ゼウスが美しい白い牡牛の姿で近づき、背に乗せたところで連れ去る
その他未婚の女に手を出す：イオ (Ap. 72) / アンティオペ (Ap. 128 末 7-129. 6) / カリスト (Ap. 142. 3-12)
(Bulf. 55-57)

- ②ゼウス→レダ テュンダレオスと結婚していた女に、ゼウスが白鳥の姿で交わった。
(Ap. 148 末 4-149. 5) →ゼウスの子としてヘレネが、夫の子としてクリュタイムストラが生まれる。
(卵で生んだという話型と、拾った卵を育てたという話型も)
→ヘレネは絶世の美女ながら、トロイア戦争をもたらし、憎まれ役となる。

- ③ゼウス→アルクメネ ゼウスが夫に化けて交わり、ヘラクレスが生まれる。
(Ap. 86 末 6-末 1) →息子はヘラの嫉妬により数々の受難に遭う。但しそれゆえ英雄となる。

Cf. アポロンの恋の不毛、不始末： コロニス (Ap. 146 末 1-147. 3) / カサンドラ (Ap. 154. 9-12) /
ダプネ (Bulf. 40-44) / クレウサ (エウリピデス『イオン』)



レイプされたクレウサはイオンを生むが捨て子にし、
のち知らぬ母子どうしは殺し合い寸前までゆく。

次回 ヘラクレス

Bulf. 196-203

Apollod. 86 末 6 - 89 末 4

89 末 3 - 103. 8 (12 難業)

103. 9 - 111. 10 (その後)